

東金剛山の語源と曇無竭菩薩、檜
巖寺の由来の追跡

2019. 4. 27

大真大学校 崔原嬭

Table of Contents

I. はじめに

II. 金剛山の語源

III. 曇無竭菩薩の由来

IV. 檜巖の由来

V. おわりに

1.はじめに



——大真大学のすぐ裏手、韓国史上最大の寺院か？
仏国寺さえ得られなかった韓国仏教最高の地位を持つ檜巖寺、なぜか？
無学大師？ 指空？ 金剛山？ なぜ華嚴経か？
なぜ朝鮮時代の寺院でありながら韓国史上最大の寺院なのか？

1.はじめに



1.はじめに



西北工程：ウイグルは中国の領土だとする
秦の始皇帝は女真族の金氏であった
秦の始皇帝は「皇帝」の称号を用いた。
つまりところ黄帝は金氏であった。
金はアルタイを象徴する。韓国の姓である。

<http://www.newstown.co.kr/news/articleView.html?idxno=346135>

英国BBC放送「韓国の王妃となったインドの王女 (The Indian princess who became a South Korean queen)」

Ⅰ. はじめに



あるから金剛石です。サンスクリット語のヴァジュラ(वज्र)は、雷とダイヤモンドを指す語です。そこでインドラが用いる、雷を落とす武器である「
ます。ところがヴァジュラ(वज्र)には雷とダイヤモンドという二つの意味があるため、堅固な金剛が他のものを砕くように一切の煩悩を断つという意

投資誘致——ユーラシア鉄道の中心地
古代インドにダイヤモンドがあったという言及はほとんどない。

1.はじめに



그림3. 금강저의 다양한 형태(위에서부터 독고저, 삼고저, 오고저), 헤이안시대(12세기), 일본 나라박물관.



金剛力士:明心見性:刀と金の気:火の刀

金剛杵:雷の武器



丹青の文様——お入りになった正門の丹青:太極の元祖?

1.はじめに



Table of Contents

I. はじめに

II. 金剛山の語源

III. 曇無竭菩薩の由来

IV. 檜巖の由来

V. おわりに

II. 金剛山の語源



宝物 高麗太祖 曇無竭菩薩礼拝図

曇無竭(曇無竭)菩薩はサンスクリット語でDharmodgata Bodhisattvaといい、法盛・法勇・法上・法起などと意識される。八千頌系統と二万五千頌系統の般若経の最終章に、常啼菩薩(Sadāprarudita Bodhisattva、常悲、普慈菩薩とも呼ばれる)の物語がある。

これは『大般若経』では第一会の最後に移されているが、説話のない般若経の中で注目される事実である。

彼は昔、一心に般若波羅蜜を求めていた。

空中から「東へ行って探せ。そうすればその教えを得られるだろう」という声が聞こえた。

そのまま行ってみたが、何もなかった。

彼は思い悩んで泣き叫び、いっそう強烈に求めると、空中に仏の姿が現れ「はるか東に香城(香城、Gandhavatī)という都城がある。

そこは七種の宝で飾られ、黄金で覆われ、宝の木が立ち並んでいる。

池には蓮の花が咲き誇り、人々に悩みのない所である

。この都城の中央に曇無竭菩薩の樂園がある。そこで菩薩は多くの女官たちとともに楽しみながら、般若波羅蜜の教えを説いている。

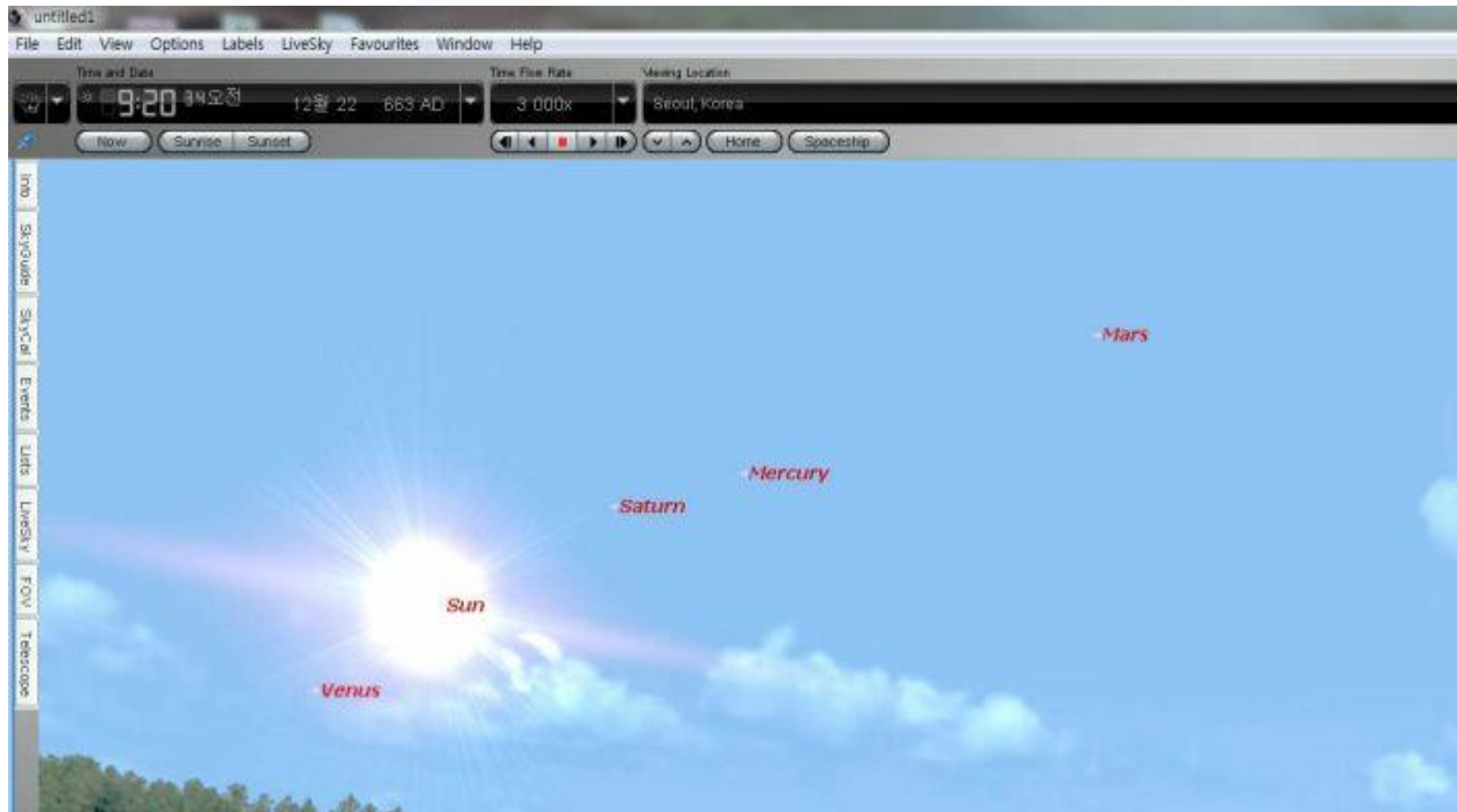
だからお前はその地を訪ね行きなさい」と教えた。

静谷正雄・勝呂信静、文乙植訳『大乘仏教3巻 初期大乘経典』(幸福な世界、2013)、p.42-43)

II. 金剛山の語源

年代	人物	内容
661	義湘	661年から670年までの9年間、唐に留学。義湘は唐の対新羅戦争の情報を入手して直ちに帰国し、護国仏教を興した代表的な護国仏教僧侶、
697~700	華嚴三祖 賢首法蔵	義湘と同期であり、賢首法蔵は中国華嚴宗の第三祖。義湘に送った法蔵の書簡とともに、法蔵は義湘に六十華嚴の注釈書である『華嚴経探玄記(華嚴経探玄記)』二巻を未完のまま送り、検討を求めた。唯識華嚴と中観華嚴の統合(崔致遠の記録)
787	澄観	唐の徳宗貞元(貞元)三年、賢首の華嚴宗統を継いだ。東海の東の近くに山があり、名を金剛という。全体が金ではないが、上下四方の周囲ないし山間を流れる水中の砂の中にすべて金があるため、遠くから望むと全体が金であると言う。また海東人(海東人)が古くから伝えるところによれば、この山にはときおり聖人が出現するという。

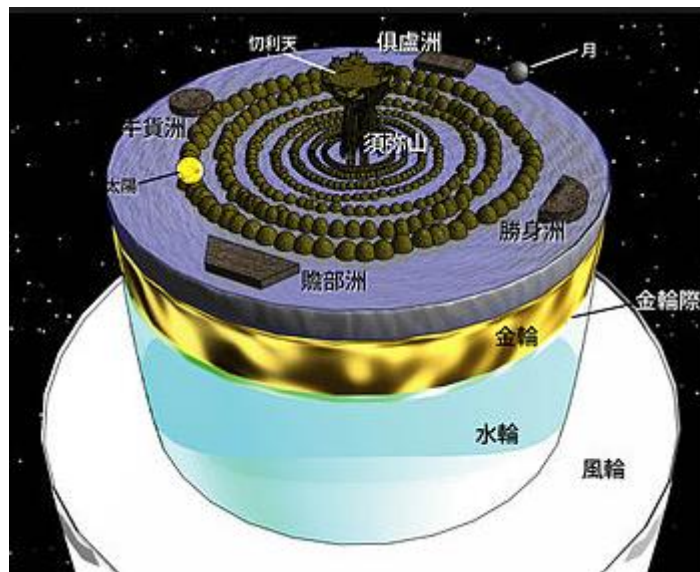
II. 金剛山の語源



663年冬至、百濟滅亡時の天と、1980年ぶりの四甲子

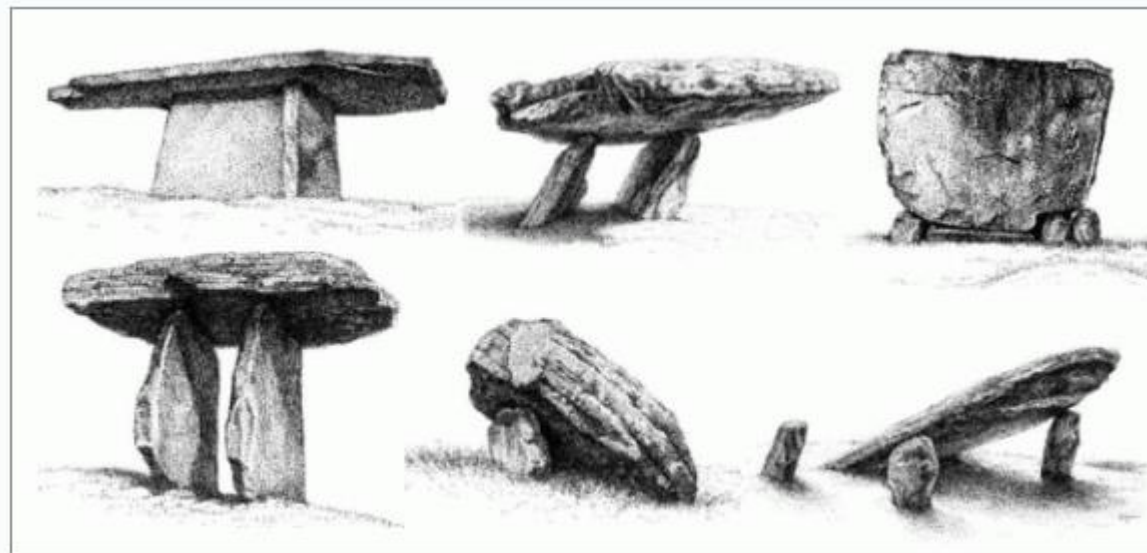
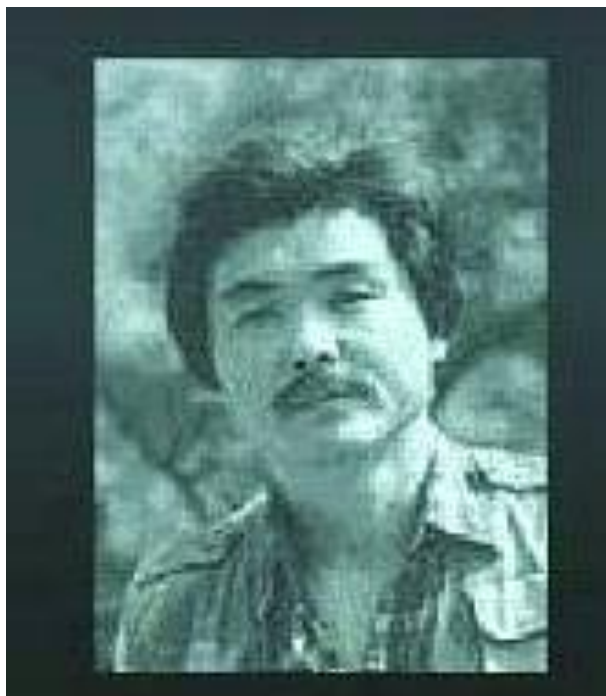
II. 金剛山の語源

金剛山=須弥山、華嚴經出現の理由:シャカ族——スキタイの後裔
釈迦族は自らを太陽の後裔と称した



九山八海=天龍八部
三千大千世界、九番目の山、三神
山
過去仏の修行地

II. 金剛山の語源



답사후 그린 고인돌그림(서양화가 변광현)

변광현(邊光賢) : 1956년 서울생, 숭문고교, 서울대학교 및 대학원, 런던 세인트마틴 미술대학 출신
동대학교 교수역임.

화가. 고인돌 및 상고사 연구가. 2005년 기관원 내사후 의문의 별세.

<http://myhome.shinbiro.com/~kbyon/>

Table of Contents

I. はじめに

II. 金剛山の語源

III. 曇無竭菩薩の由来

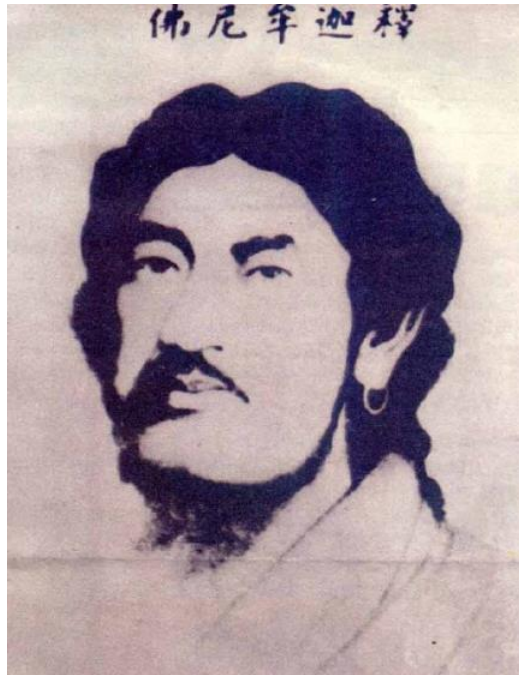
IV. 檜巖の由来

V. おわりに

III. 曇無竭菩薩の由来

過去仏？

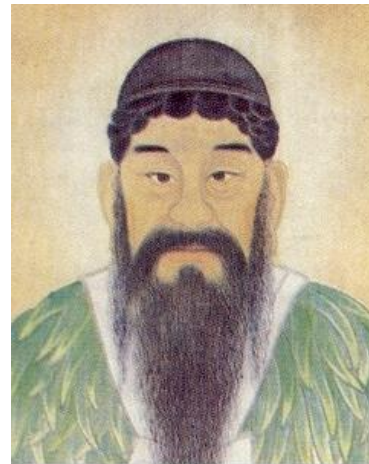
英国の「モニエル・ウィリアムズ」がオックスフォード大学で約100年前に編んだ辞典
僧侶らは「モニエル辞典」と略称する



大英博物館：釈迦牟尼の肖像画



バビロニア
サルゴン



薛聡
檀君

धनु *dhanu*, m. or (Up. i, 82) 2. *dhanū*, f. (fr. √2. *dhan*?) a bow, Hit.; Śāntiś.; a measure of 4 Hastas or cubits, L. (cf. *dhanv-antara* below); the sign of the zodiac Sagittarius, Priy. i, 5; Buchanania Latifolia, L.; Semecarpus Anacardium, L.; (*dhanu* or *dhanū*), f. a dry sandbank, a sandy shore [cf. Engl. *bight*, Germ. *Bucht*], RV.; AV. i, 17 (nom. *nūs*). — **ketaki**, f. a kind of flower, L. — **gupta**, m. N. of a man, L. — **rāja**, m. N. of one of the ancestors of Śākya-muni, L. — **rāśi**, m. the sign of the zodiac

Dhanu-

Raja (ダヌ・ラジャ)：檀君は釈迦牟尼のはるか昔の祖先である。Dhanu：サンスクリット語で人類の祖はマヌ（

Manu,

Manus）、マヌの妻である女性祭司をマヌラ（Manura）、Dhanu（ダヌウ）は聖なる人、すなわち「檀君」「祭司」を指す。Raja：ロイヤルファミリー、王、王族、祭司の意。

http://f0031.kkk24.kr/bbs/board.php?bo_table=sub08_01&wr_id=123&sst=wr_hit&sod=asc&sop=and&page=2

Ⅲ. 曇無竭菩薩の由来

華嚴經＝龍樹菩薩、大乘經典、龍宮？
、龍、ナーガ、ドラゴン、海、海印



インドの龍、ナーガ



海の宗教：仏教、南インド

스리랑카에 전해지고 있는 우리의 역사(문병채 씨의 조사)	
싱할리족 역사	1만년의 역사로서 한반도에서 시작된 조선과 관련된 역사기록이 전해지고 있음
석가모니	석가모니의 조상은 한국인이다.
초기불상 상투	석가모니가 한국인을 입증하는 상투머리
한국 언어	약 500개의 동일한 언어를 사용함
세시 풍속	우리 특유의 웃놀이 도깨비 문화가 같음
부처, 관념	인도 혈통의 석가모니를 부정하고 있음
위와 같은 내용을 왜곡할 이유가 없다는 것에 대한 신뢰성.	

釈迦牟尼が韓国人の血統を受け継いでおり、シンハラ族である自分たちも韓国人と同じ血統だと考えている点である。すなわち、仏陀は韓民族出身の傑出した「賢者」であり、彼が韓国人の後裔であるという事実を当然視している。[出典] 「釈迦牟尼の先祖たちの故郷は朝鮮半島」？…驚くべき歴史物語 |

Ⅲ. 曇無竭菩薩の由来

海＝朝鮮半島、仏教：太陽と海
支石墓＝甑（こしき）、水の循環



水上に咲く花であり、
水上は蒸気が天へ昇る
道であるため、蓮の花
は現世と来世をつなぐ
花と見なされたのであ
る。



【図24】金海鳳凰洞出土

불교의 불(佛)자를 자해(字解)한 뜻	
사람인(人)	사람이라는 뜻
활궁(弓)	고대 활은 자(尺)로 이용되었음. 1궁(弓) : 140cm ~ 165cm
칼도(丩)	칼은 떠오르는 태양을 상징함 (『인류문명의 발상지 한국』 2권 290쪽 참조)
사람(人)이 떠오르는 태양(丩)을 헤아리는(弓=尺) 것이 불(佛) 글자의 뜻	

韓鍾燮 『人類文明の発祥地・韓国』、集文堂、2013

Table of Contents

I. はじめに

II. 金剛山の語源

III. 曇無竭菩薩の由来

IV. 檜巖寺の由来

V. おわりに

IV. 檜巖寺の由来

指空：摩訶迦葉。迦葉仏と関わりのある一族



指空の移動経路

IV. 檜巖寺の由来

指空の年代記

年代	人物	内容
1300	出生	釈迦牟尼仏の父王・浄飯王（正飯王）の弟である斛飯王の後裔。韓国系
1308年(8歳)	出家	インドのマガダ国(摩竭提国:現在のネパール南部)の王子出身。三兄弟の御子が出家すれば父王の病が癒えるとされた
1319年(19歳)	法統継承	スリランカ。師の命により迦葉系列の普明尊者の弟子となる。牧隠李穡が撰した『指空和尚浮屠銘并序』によれば、迦葉尊者の108代法孫
1320～1325年(26歳)	海外布教	北京に到着し、元の皇帝晋宗から積極的な歓迎を受け、「生まれ変わった仏」として崇められる
1326	高麗訪問	指空禅師の韓国内での足跡は、楊州檜巖寺、驪州神勒寺、梁山通度寺、曹溪山松広寺、光州無等山の指空禅師修道窟とノドルゲン、江華喬桐面華蓋寺など、当時の政治的僧侶が留まった都・開京(開城)を離れた奥深い山中寺院に見られる
		この寺にしばし留まり、その後弟子となった懶翁大師に命じて檜巖寺を大きく重創した。(般若禅VS看話禅)

IV. 檜巖寺の由来

金守溫의 「檜巖寺重創記」

김수온 「회암사중창기」 『拭疣集』 권2 “昔天曆間 西天博伽納提尊者 見此寺之基 以爲酷似西天阿蘭陀寺 且曰 迦葉佛時 已爲大道場 於是執繩量地 以定其位 時得劫前礎砌 當時暫庇屋宇 以識其叢而已 有玄陵王師普濟尊者 受指空三山兩水之記 遂來居此 乃欲大創 分授棟樑 奔走募緣 功未及半 而王師亦

曇無竭菩薩→過去仏→迦葉仏

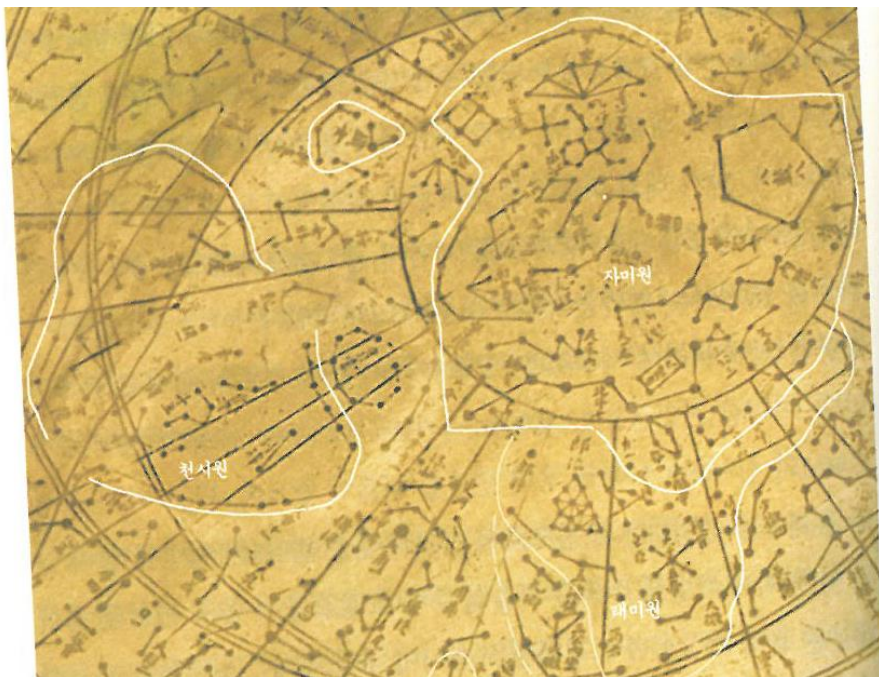
고려말 檜巖寺의 중건과 그 배경

金 澈 雄*

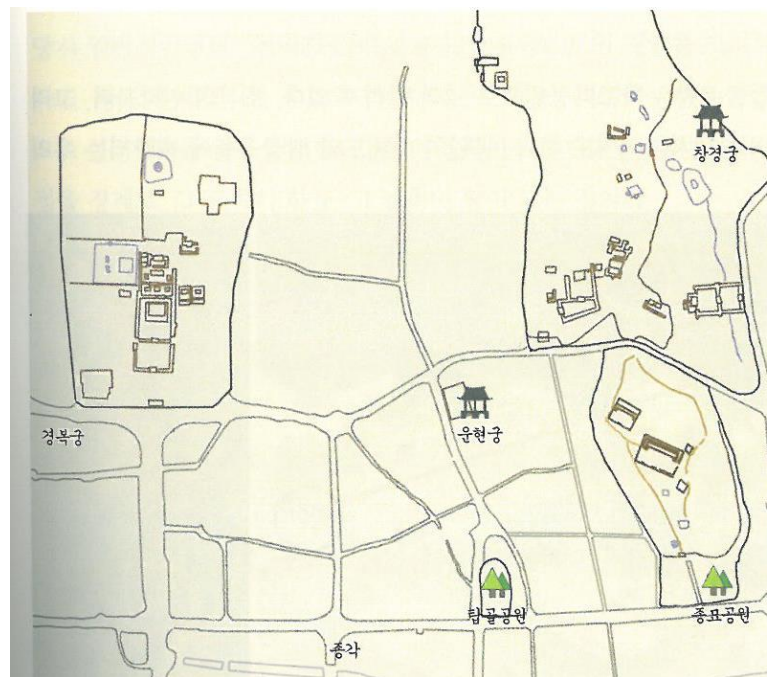
IV. 檜巖寺の由来

出典	内容	備考
三国史記 三国遺事	解夫妻が扶余の王であったとき、大臣の阿蘭弗の夢に天帝が現れ、「東海の手辺の迦葉原という所へ都を移せ」と命じたため、そこへ都を移すことにした。「東海の手辺に土地があり迦葉原という。土地が肥沃で五穀を育てるのに適しており、都とするに足るであろう」と言った	
無学訣	天皇・地皇・人皇の後、天下の大なる金山に六丈の金仏あり、よく言葉を発し、化して田女となる	
鄭京姫	迦葉仏は、新羅人が釈迦仏以前の韓国仙道の伝統における三聖を、仏教の過去仏である迦葉仏として表現したものであった。三聖のうち三番目が檀君であり、迦葉仏が多く過去の過去仏の中で釈迦仏の直前の仏である点を念頭に置けば、三聖の最後の檀君が迦葉仏として表現された可能性が考えられる。このように韓国仙道の三聖の伝統は、迦葉仏論へと姿を変えて仏教の伝統の中へ吸収された。このように過去の三聖に対する記憶が迦葉仏論へと摂化された一方、現在や未来の三眞覚性の可能性は未来仏、すなわち弥勒仏と結合した。弥勒仏思想は三国時代の仙・仏習合現象の中心となるほど極めて重視されたが、その中でも特に「弥勒下生思想」が中心となった。(三国時代の仙・仏習合の「弥勒思想」)	

IV. 檜巖寺の由来



▶ 3원이란 자미원, 천시원, 태미원을 말한다. 천상열차분야지도 목판본의 일부분에 3원의 위치를 표시해 보았다.



◀ 경복궁, 창덕궁 · 창경궁, 종묘 부근의 현재 지도. 38쪽의 사진에서 3원의 배치와 그 구도가 닮았다.

鄭泰民 『星座に隠された我らの歴史』 より

IV. 檜巖寺の由来

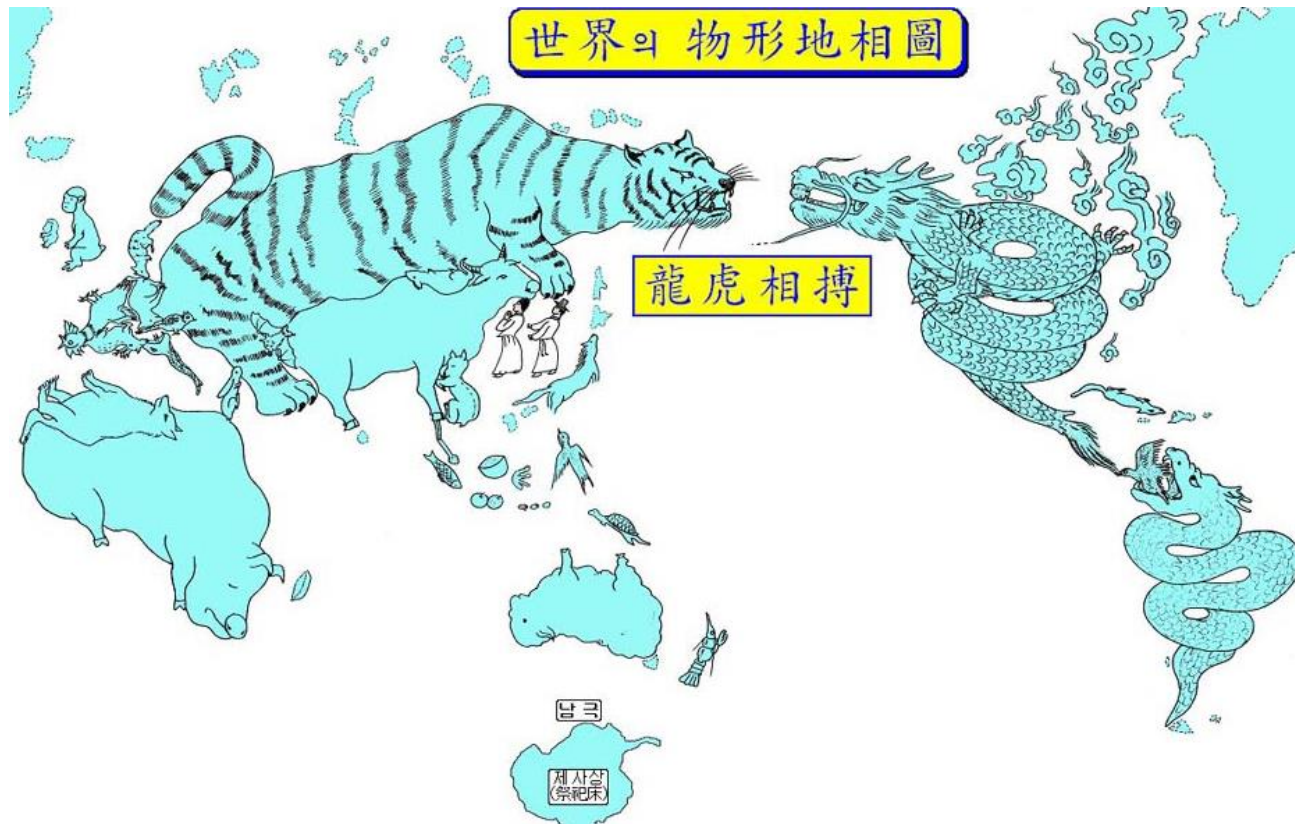


Table of Contents

I. はじめに

II. 金剛山の語源

III. 曇無竭菩薩の由来

IV. 檜巖の由来

V. おわりに

V. おわりに

区分	内容
檜巖寺 VS ナーランダー寺	■ インドにあったとされる過去仏・迦葉仏の道場であるナーランダー寺の跡地が檜巖寺跡を模して造られたのか、檜巖寺跡がナーランダー寺を模して造られたのかが、檜巖寺の由来の要となる。これは金剛山の由来を明らかにしてこそ解決できる問題となる。これまで檜巖寺跡がナーランダー寺を模して造られたという研究はあるが、逆にナーランダー寺が檜巖寺跡を模して造られたという研究はない。指空は檜巖寺跡がナーランダー寺に似ているとだけ述べ、どちらの寺跡が先であったかは明らかにしなかった。 ■ もし従来の研究のように檜巖寺跡がナーランダー寺を模して造られたのであれば、あえて指空が2年間も曇無竭菩薩を見に金剛山へ来る理由もなく、檜巖寺跡をわざわざ訪ねる必要もなかったであろう。無学と李成桂が着目したのはこの点であった。朝鮮初期には、指空が間接的にナーランダー寺が檜巖寺跡を模して造られたことを示唆したとみなされたのである。指空が金剛山を見に遠く北京から来た理由もまた、タゴールと同じく金剛山が須弥山であることを確認しに来たことになる。これにより、釈迦仏と弥勒仏の対立のように、金同と指空の対決といった多くの伝説も生まれた。 ■ 本稿は、インドにあったとされる過去仏・迦葉仏の道場であるナーランダー寺の跡地が檜巖寺跡を模して造られたという立場の研究である。従来の研究とは異なり、歴史史料は本稿の趣旨と同様に記述されてきており、近年の伽倻研究や中国の西北工程研究は本稿の論旨を裏付けている。今後の研究が非常に必要とされる分野である。

ありがとうございました